大久保地区・地域だより
No.105 さわやかおおくぼ
写真募集しています よろしく！
2025年9月30日発行　編集・発行 大久保地域センター管理運営委員会広報部　☎03-3209-3961

韓流から多国籍のまちへとスピードを増して移り変わる新大久保

なつかしい　あの日　あの時

まちは生きている、私たち人間と同じように成長しながら傷つきながら変わっていく店番をしている優しい小父さん、美味しい丼を運ぶ笑顔の少女、私たちの思い出を包みこみながらまちは移り変わる。

イベントニュース

怪談話　「朗読会」　8月24日（日）

演目「人の顔」「ゆきとどいた生活」「薬缶」「時雨鬼」

出演：あるていすと（戸山朗読会）

出演者、揃ってのご挨拶です

「大久保風景の今昔」

おおくぼ通りのうつりかわりを地図と写真でたどる ―――

表紙のなつかしさ満点の写真と地図は、この展示会より、ほんの一部を掲載しました。

昭和初期からの地図と約100枚の貴重な写真が10月末まで鑑賞できますので大久保地域センター３階ロビーへぜひ、ご来場ください！

昭和から令和へ激しく移りかわったこの新大久保商店街、地図と写真によって地域にお住まいの方々の思い出や話の一粒となりますように。

行事予定

※日本・インド・韓国の舞踊体験	令和７年10月　５日（日）
※おからで味噌づくり	令和７年11月25日（火）
※日本の音曲あれこれ	令和８年　１月18日（日）
※世界を知る・味わう講座	令和８年　２月　１日（日）
※花の生け方教室	令和８年　３月　５日（木）

※行事は変更になることがあります。

■ 編集後記

暑いさなか、委員たちは何度も集まって105号が完成しました。原稿をお寄せくださった皆さま、ありがとうございました。

問い合わせ　大久保地域センター　TEL 03（3209）3961　FAX 03（3209）3962

日本文化を楽しむ

盆踊り教室　7月20日（日）

皆で踊る♪恋するフォーチュンクッキー♪

夏休み（なつやす）手打ちうどん教室　8月4日（月）

1　玉つくり
2　足踏み　ビニール袋に入れ、まるく伸ばす
3　寝かし　まるくまとめ、しばらく寝かせる
4　延ばし　めん棒でのばす
5　たたみ　びょうぶだたみにする
6　切り　幅４～５ミリ

大久保地域センターまつり 第1部
第29回
大久保地域センター
五月まつり
SATSUKI MATSURI
5月17日 土曜日

4階 わいわいひろば

ガラガラポン

千本引き

縁日ひろば　お菓子をもらおう！

射的

折り紙教室　さくら日本語サークル

キックターゲット　クリアソン新宿

3階 わくわくひろば

ストラックアウト　学習会テラコヤ

大久保地区協議会　安全・安心分科会　まちの将来像分科会

自転車シミュレーター　新宿警察署

韓国文化コーナー　韓服と韓国文化体験　韓服普及協会

日本文化コーナー　お茶席　しおんの会

チャリティー指圧　新宿区赤十字奉仕団大久保分団

多文化コミュニティカフェ　NPO法人CWS Japan

休憩所

スイーツ・おこわ　グループあみ

ビーズでブレスレット　桜美林大学　地域交流ボランティア団体　unite（ユナイト）

ヨーヨーキルトでブローチづくり　パッチワーク・グループ りら

車椅子体験・高齢者疑似体験　新宿区社会福祉協議会

認知症クイズ・ぬりえ　ペーパークラフト　新宿区大久保高齢者総合相談センター

フランクフルト　新大久保商店街振興組合

1階 おまつりひろば

わたあめ・かき氷

桜美林大学　地域交流ボランティア団体 unite（ユナイト）

焼きたてパン　新宿福祉作業所　エスポワール

桜美林大学　サクベジプロジェクト

小さな消防士さん　新宿消防団

知ろう！血管年齢　東新宿保健センター

私たちの まちを創る まちを守る

町会・自治会

地域をつなぐ大久保地区の町会・自治会は、全部で２０あります。地域の様々な楽しいイベントや防災訓練・歳末の火の用心の見回り・交通安全運動など、いろいろな活動をしています。

いざ災害が起った時の避難所は各地域の町会自治会ごとに決められています。町会自治会に入会して「共助（共に助け合う）」の力で災害を乗り切りましょう。

大久保地区
町会・自治会 区域図

⑭ 都営百人町三丁目アパート連絡会
⑮ 都営西大久保五号棟自治会
⑯ トーア早稲田マンション自治会
⑰ 都営西大久保四丁目アパート自治会
⑱ ニュータウンオークボ自治会
⑲ 西戸山タワーホウムズ自治会
⑳ 西戸山住宅自治会

① 東一町会
② 新宿東二町会
③ 歌舞伎町二丁目町会
④ 新宿六丁目一新会
⑤ いぶき町会
⑥ 大久保二丁目町会
⑦ 区営大久保三丁目自治会
⑧ 都営西大久保アパート自治会
⑨ 百人町西町会
⑩ 百人町東町会
⑪ 百人町南町会
⑫ 百人町中央町会
⑬ 百人町三丁目町会

町会とは？

町会（自治会・町内会）の歴史を調べてみました

町会は、地縁に基づいた近隣住民によって組織され、住民同士の繋がりを築き、行政協力を含めた良好な地域社会を形成、維持する地域活動です。

この会の起源は、というと研究者によって様々な考え方があるようです。江戸時代にはすでに「町（まち）」という組織が存在し、地域住民が協力して自律的な運営が行われていた、これが前身という説、ただ「まち（街区　ブロックを意味する）」といえば平安時代にもこれに近い組織があったという考え方もありました。また近世の五人組の精神を汲むと言う意見も広く伝わっているようです。しかし、五人組は幕府が任命した町役人の末端でした。町内会の起源は必要によって自然発生的に生まれたものであり、官製のものではなかったと言われています。

町内会の組織が自然発生的に広がるにつれ、1935年頃から内務省は、この組織を行政機構に組み入れることを計画しました。その頃、日中戦争の口火が切られ（1937年）、町会は行政や軍の思惑も含めて、否応なく戦時体制に組み込まれて行きました。このことは戦後、「町会」となり組の汚点として残されました。

終戦を迎えて、連合軍によるポツダム政令が交付され、町内会やそれらの連合会等の結成が禁止されましたが、5年後、この政令は失効したので、組織は再び蘇りました。地域コミュニティはもとより、防犯、公衆衛生、交通安全、緑化活動など時代が要望したのでしょうか、町会は地域の生活改善に大いに貢献しました。

昭和が終わり、平成、令和と年月が流れ、町会のあり方、住民の関わり方も少しずつ変わって来ました。町会は世帯を1単位とした任意団体ですから入退会は自由です。町会とは？と各世帯で関心を持って問いかけてみるのは如何でしょうか。

大久保地区協議会

大久保地区協議会は、2005年区民の区政参画と地域課題解決のため、町会、自治会、青少年育成委員会など地域団体から構成され、「安全・安心」「まちの将来像」の２つの分科会が誕生しました。

まちの将来像分科会

ホンキリン　ヤエキリン　つつ姫　つつ花

まちの将来像分科会は、地域に基づく文化、自然に恵まれたまち、ひとり暮らしの方や高齢者の方も安心して住めるようなまちを創りたいとスタートしました。

江戸から明治の時代にかけて多くの花見客で賑わっていたつつじの里大久保。その後、戦災や宅地化で消えた「大久保つつじ」を地域に再び広めようと、2008年館林市つつじが岡公園に植えられていた「大久保つつじ」の原木から挿し芽をして育てた苗木（本霧島と八重霧島の２品種）が、つつじの里児童遊園と皆中稲荷神社に植栽されました。

挿し芽会の作業

「まちに花咲く大久保つつじ」　　まちの将来像分科会　会長　浅井春夫

大久保特別出張所と連携して、2017年６月から始めた「挿し芽会」を毎年実施し、サポーター（会員）が自宅で大きく育てた苗木を、都立戸山公園や、区立百人町三丁目ポケットパーク19に植栽し、継続して増やしています。

４月には「大久保つつじお散歩マップ」をもとに大久保・百人町の十数か所をお散歩しながらお花見を楽しんでいます。また、つつじの剪定や腰をかがめての草取りにも汗を流しています。

リーフレット『ようこそつつじのさと大久保』を発行して、五月まつり、大久保まつり、百人町まつりなどの地域のイベントで配布し、啓発に努めています。

大久保地区の小学校でも大久保つつじの植栽などが少しずつ広がってきていることも嬉しいことです。苦労はありますが、つつじが大きく育つ将来の夢を求めて活動を続けてまいりますので、皆さんのご参加をお待ちしています。

リーフレット「ようこそつつじのさと大久保」

大久保地区内のつつじ調査

安全・安心分科会

新宿シンちゃん　エンブレム

2006年安全・安心分科会では「自分たちの地域は自分で守ろう」をスローガンに地域ぐるみの活動として大久保地域見守り隊が結成され、活動のシンボルとなるよう新宿シンちゃんの見守り隊エンブレムを作成、小学校をはじめ地域団体に配布し、見守り活動が始まりました。

＊新宿シンちゃんはアンパンマンでお馴染みの漫画家やなせたかしさんが防犯用マスコットとしてデザインし、新宿区に寄贈されたものです。

安全・安心一斉パトロール（下校時の見守り）

安全・安心一斉パトロール（出発式の様子）

表彰状

「私たちの地道な活動が表彰されました」　　安全・安心分科会　会長　大和涼子

お買い物に見守り隊のエンブレムを付けてパトロール。普段の生活の一部に組み込んでいただきました。多くの皆様のご協力があってこそ、19年の長きに渡って活動を続けることができたと思っています。私たちは、犯罪者が問題を起こすことをためらうよう「大久保地域安全・安心の日」を設定し、毎年大掛かりな大久保地域一斉パトロールを行ってきました。その取り組みに関して、2018年には警視総監賞を頂くことができた上に昨年には関東管区警察局長と関東防犯協会連絡協議会長の連名にて、特別功労賞を頂戴いたしました。

持続は力であり、このような表彰は、私たちにとっては大きな励みとなりました。来年20周年を迎えるにあたり、心機一転、新たなことにもチャレンジしていくことが、惰性を廃し、この活動に命を与え、私たちも生き生きと活動することになるのではないかと決意しています。

大久保風土記

大正時代～大久保キネマの時代

新大久保駅のすぐ隣に映画館「大久保キネマ」がオープンしたのは大正13年12月。鬼王神社前にすでに「三栄館」があり、大久保では二軒目の映画館でした。

大久保キネマは洋画専門館として始まります。D.W. グリフィス、セシル .B. デミル、そして、チャップリンやジョン・フォードなどの作品が上映されていました。コメディアンの古川ロッパは、この当時にチャップリンの「黄金時代」を観たことを日記に書き残しています。

ところが、映画館の業績は芳しくなく、経営者も次々と変わりました。そのひとりが、歌手・近江敏郎の実兄で、その後、大蔵映画株式会社を興す大蔵貢でした。大蔵は人気弁士でしたが、トーキー時代の到来を見据えて経営者に転身したといいます。

昭和12年、日中戦争が始まると、映画事業は国家の統制下に置かれ、厳しい検閲を受けることとなります。大久保キネマでも、洋画だけでなく邦画の上映が増えていきました。エノケンこと榎本健一の映画などもかかったようです。太平洋戦争が始まると、「ハワイ・マレー沖海戦」「マレー戦記」などの「国策映画」も上映されました。

やがて戦局も悪化し、新宿地区では多くの映画館が建物疎開に指定されます。建物疎開とは、空襲による被害拡大防止のための強制的な建物撤去のことで、大久保では、角筈から百人町三丁目、つまり、新宿駅付近から新大久保駅に至る山手線沿線の、延長1160メートル、1万5700坪が建物疎開に指定され、大久保キネマもその範囲に含まれていました。昭和19年4月、大久保キネマはついに取り壊され、姿を消してしまったのです。

そして、昭和20年4月13日の「城北大空襲」により、大久保もほぼ全域が焦土と化しました。その後、終戦を迎え、新宿駅付近では映画館も再建されて街は復興しましたが、大久保に映画館が戻ってくることはなかったのです。

大久保風土記

鎮守の杜のまちかど博物館

稲荷鬼王神社の境内隣接地に『大久保館』【開館は三栄館という名で大正十一年（1922年）開館　大正十五年（1926年）以前に改称閉館は戦時中】という映画館がありました。

地元に映画館があった事を知っていただこうと、平成十六年（2004年）より氏子崇敬者の皆様から戴いた資料や当社が集めた映画資料【大正、昭和の戦前・戦中・戦後、平成のそれぞれ当時のチラシ、映画に関する雑誌、プログラム、ポスター等が数千点※大久保館そのものの資料ではありません】を毎年九月十八日の稲荷鬼王神社祭礼日にあわせた大祭期間中に、毎年数百点ずつ境内の仮設掲示板を使用して展示してまいりました。（稲荷鬼王神社 資料の一部より）

映画ポスター展示風景（稲荷鬼王神社）